ISSN 0919-4657

# KONC

# 関西自然保護機構会報

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

21巻1号（通算37号）



1999年6月
関西自然保護機構

## 表 紙 の 言 葉

「ネジリンボウ」

写真　平田　智法
文　　大西　信弘

このハゼは，ネジリンボウという名前がついています。魚だとはわからない名前ですが，体に入った斜めの縞模様の具合が，「ねじりん棒」と似ているところからつけられました。「ねじりん棒」とは，床屋によくある，赤・白・青の斜めの縞が回転するサインポールのことです。「ねじりん棒」は，模様がねじれていますが，ネジリンボウは，写真にあるように，体の左側も右側も同じ模様で，縞模様がねじれているわけではありません。

シンプルな縞模様と変わった名前のためか，ネジリンボウは，ダイバーに大人気です。スキューバダイビングの普及にともなって，水中に一眼レフのカメラを持ち込むためのハウジングが市販されるようになり，水中写真は，ダイビングの楽しみ方の一つになっています。ネジリンボウのいるダイビングスポットでは，撮影を待つダイバー達の行列ができる程です。インターネットで検索すると，たくさんのホーム・ページに，水中写真付きで掲載されています。

ネジリンボウとスキューバダイビングとの縁は，日本で初めて見つけられたときから始まっていたのかもしれません。ネジリンボウが日本で初めて見つかったのは，愛媛大学の柳沢康信教授が，大学院生として京都大学の瀬戸臨海実験所に所属されていた1973年に，和歌山県の白浜でスキューバ・ダイビングを用いた調査中だったそうです。さらに愛媛大学に赴任された後，魚類の生態調査のための新たな調査地を愛媛県の南部にある御荘町に選んだのも，ネジリンボウがいたからかもしれません。

この写真は，1992年4月19日に，高知県幡多郡大月町で撮影されたものです。ネジリンボウは，テッポウエビ類の掘った巣穴でテッポウエビと共生していて，ふだん巣穴の入口で，写真にあるように海底からわずかに浮き上がって暮らしています。小さいときには小さなエビと，大きくなると大きなエビと共生しているようです。小さなハゼとエビの組合せは，まるでミニチュアみたいで，ユーモラスです。このような共生をみることができることも人気の一つなのかもしれません。共生は，これからの自然と私達人類の関係を考える上で，欠くことのできない考え方でしょう。ハゼとエビの共生が，ハゼとダイバーの関係のあり方を考えるきっかけになればと願わずにはいられません。


**関西自然保護機構**（ＫＯＮＣ：Kansai Organization for Nature Conservation）

ＫＯＮＣはなんらかの形で，専門家として自然環境保護にかかわる人たちを幅広く組織して，自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして，1978年に創立されました。

ＫＯＮＣはその活動の成果と，会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて，近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザリー・ボディ(助言勧告機関)として，社会の要請にこたえることを企図しています。

現在，次のような活動をしています。

1．基礎研究の実態
2．シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3．現地見学会の開催
4．研究助成金の交付
5．会報・連絡紙の発行
6．自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7．自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8．国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は，個人会員・維持会員の会費により，まかなわれています。